

学校教育目標		知・徳・体の調和のとれた生徒の育成		土佐市立 土佐南中 学校		公印	NO. 1
研究主題		一人ひとりを大切にしたいわかる授業の創造 ～自分で考え、適切に行動する生徒の育成～					
重点項目		評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄
1 の ば そ う 学 力	確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	学ぶ意欲の向上	児童生徒アンケート「あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E	27年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H27:4.0→H28:3.8(－0.2)	○昨年度より0.2P下降した。2・3年生の肯定群が昨年より減っている。強い肯定群は増えており、2極化の傾向がある。1年生は肯定群87.6%と高い値である。	A B C D E	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への更なる改善を図る。 ○様々な課題を抱える生徒に寄り添い、話を聞き、一歩でも前に踏み出そうという気持ちを引き出していく。
		わかる授業の創造	児童生徒アンケート「あなたは授業がよくわかりますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E 教員アンケート「あなたは、わかりやすい授業につとめていると思いますか」の、5段階平均で判断。 4以上＝A 3.5以上＝B 3以上＝C 2.5以上＝D 2.5未満＝E 全教員の公開授業の実施率で判断。 ・教員の90%以上が公開＝A ・教員の80%以上が公開＝B ・教員の70%以上が公開＝C ・教員の60%以上が公開＝D ・教員の60%未満＝E	27年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H27:3.8→H28:3.6(－0.2) 27年度、教員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:3.7→H28:3.9(+0.2) 27年度、教員アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でAを目指す。 ・H27:11人実施(100%)→H28:10人実施(100%)	○昨年と同じB評価ではあるが、0.2P下降している。3年生は昨年と同じ傾向であるのに対し、2年生の値が下がっている。2・3年生とも強い肯定群は増えており、2極化が見られる。1年生は否定群が0である。 ○昨年度より0.2P上昇し、A評価まであと一歩である。学校ビジョンを共有し、同じ方向を向いて取り組んできた結果であると思われる。しかし、生徒や保護者の結果との間にはギャップがある。 ○全校公開、自主公開の授業研究を計画し、全教員が実施できた。 ○自身の授業があるために、自主公開授業を参観する機会がなかなかない。	A B C D E A B C D E A B C D E	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への改善を図る。 ○机間指導等により確認作業をていねいにし、進捗状況や理解度を把握し、個に応じた指導を行っていく。 ○取り組みが教師の自己満足にならないように、生徒の声に耳を傾け、さらに授業改善に取り組む。 ○机間指導等により確認作業をていねいにし、進捗状況や理解度を把握し、個に応じた指導を行っていく。 ○教員全員が「学校ビジョン」「授業のスタンダード」をめざし、同じ方向に向かっての研究協議、振り返りをしていくようにする。全員が参観できる機会を増やす。
		家庭学習の定着	家庭学習時間を小低30分以上、小中45分以上、小高60分以上、中学生90分以上学習している児童生徒の割合で判断。80%以上＝A 70%以上＝B 65%以上＝C 50%以上＝D 50%未満＝E	27年度は5段階評価でCであった。 28年度は5段階評価でBを目指す。 ・H27:65.6%→H28:61.6%(－4.0%)	○90%以上の割合は学年が上がるにつれて大きくなる傾向は変わっていないが、2年生の昨年から伸びが鈍い(1年次より増えてはいる)。 ○総学習時間の平均は117分と昨年より19分延びている。	A B C D E	○各教科で授業とリンクした家庭学習課題を与える。 ○個に応じた課題を与える。 ○学習委員会等で家庭学習時間コンクール等の刺激を入れる。
		読書活動の推進	学校図書館の児童生徒平均貸出数で判断 (小学校) ・40冊以上＝A 20冊以上＝B ・10冊以上＝C 5冊＝D ・5冊未満＝E (中学校) ・20冊以上＝A 15冊以上＝B ・10冊以上＝C 5冊以上＝D ・5冊未満＝E	27年度は5段階評価でBであった。 28年度も5段階評価でBを維持する。 ・H27:平均貸出16.9冊(12月現在)→H28:平均貸出16.8冊(－0.1冊)12月現在	○朝読書において、図書委員がおすすめの本を紹介することで、生徒どうしをつなぎ読書への興味・関心を高める活動ができた。 ○1年生の貸出平均数数は21冊となっており、維持していきたい。 ○図書室をほとんど利用せず、本を借りない生徒がいる。	A B C D E	○朝読書における図書委員の活動を継続していくことで、様々なジャンルの本に触れさせ、図書室の利用機会を増やしていく。
		●全校の取り組み①「まとめ」をイメージできる「めあて」の提示②自分の言葉で表現する場面の設定③考えて行動して成功したという体験を積ませる仕掛け●「授業力チェックシート」を活用した授業改善の実施(毎学期)●指導方法の工夫改善(1年生数学、2・3年生英語と全学年総合のTT、2年生数学の分割による少人数指導、3年生数学の習熟度別指導)●小中連携推進合同研修会の実施●単元テスト等による授業内容の習熟度を確認				A B C D E	○学力の定着に向けて左記の各取組を行ってきたが今後はそれぞれの取組の効果的な運用と充実が必要である。
		標準学力調査の状況	NRTの結果(小5・中2)による、学力の定着度で判断。偏差値平均から ・+4P以上＝A ・+2P以上＝B ・0P以上＝C ・－2P以上＝D ・－2未満＝E	27年度は、標準学力調査について5段階評価で国語はB、数学はEであった。 28年度は、5段階評価で国語はA、数学はCを目指す。 ・H27:国語52.7、数学46.7→H28:国語50.1、数学50.6	国語(偏差値平均50) 観点別でみると、読す・聞く・書く能力は全国比を超えているものの、読む能力と言語についての知識・理解・技能が低い結果となった。昨年度より－1.6となっている。 数学(偏差値平均50) のどの領域、観点においても全国比100を超えた。特に、資料の整理が全国比112とよくできていた。	A B C D E A B C D E	○「読む」は、説明的文章と文学的文章の読み取りの進みの徹底をする。「言語」については、漢字や文法の復習を授業の場面で設定をし、必ず小テストで定着を確認する。 ○「授業のスタンダード」の徹底による日々の授業改善、宿題の工夫、定期テストの改善により、平素から着実に力をつける。
		高知県学力定着状況調査の状況	H26高知県学力定着状況調査(小5・中2)の結果から判断。県平均から、小は+4P以上＝A、+2P以上＝B、0P以上＝C、－2P以上＝D、－2未満＝E、中は、+5P以上＝A、+3P以上＝B、+1P以上＝C、－1P以上＝D、－1P未満＝E	27年度は、高知県学力定着状況調査について5段階評価で国語はA、数学はAであった。 28年度も、5段階評価でAを維持する。 ・H27:国語75.0、数学54.8→H28:国語56.2、数学60.6	国語(中2 56.2 県55.2) 県平均を1ポイントしか上回っていない。書くことに課題がある。複数の資料から読み取ることや、自分の考えを書くことが十分ではない。また、書く条件が複数あるとすべての条件を取り入れて書くことができていない。 数学(中2 60.6 県49.1) 県平均を11.5ポイント上回ることが出来た。普段の授業から、問題や授業のまとめにおいて、自分の考えを表現する場面を設定することや、意見を問う問題を取り入れていたことが要因として考えられる。	A B C D E A B C D E	国語 ○「書く」を意識して場面設定をする。「書くこと」が苦手な生徒への支援が必要である。 数学 ○今後も自分の考えを表現する場面を設定し、授業のまとめを考えためあての提示を行う。 ○解き方などを説明をする問題において、無解答率の高いものがあつたので、日々の授業で説明の手立てを考え、ヒントカードなどを用いて、説明の方法や、やり方を定着させていく。
		全国学力・学習状況調査の状況	全国学力・学習状況調査の結果による、学力の定着度で判断。(ABの合計平均値全国平均と比較して差が ・+2P以上＝A ・0P以上＝B ・－2P以上＝C ・－4P以上＝D ・4P未満＝E	27年度は、全国学力・学習状況調査について5段階評価で国語D、数学Eであった。 28年度は5段階評価で国語C、数学Cを目指す。 ・H27:国語65.1、数学46.7→H28:国語74.1(+3.0)、数学54.0(+0.8)	(国語・小65.3 中・71.0) B問題が特に全国平均より5.6高い。日頃より、意欲的に学習に取り組む、過去の問題においても真面目に取り組むことができた。課題としては、記述式問題で無答率が高くなっている。 (算数・62.4 数学・53.1) A問題では全国平均を2.1ポイント上回ることができたが、B問題で0.4ポイント下回った。目標であるB評価には達したが、課題として、活用を問う問題を日々の授業で取り組んでいく必要がある。	A B C D E A B C D E	○生徒は意欲的に学習に取り組む、過去の問題においてもしっかり取り組むことができていいる。今後は、生徒の活用する力を高めるために、日々の授業の中で、活用を問う問題や記述式問題等に取り組んでいく。
		●放課後学習タイム、水曜日の加力タイムの継続 ●「学習シラバス」を活用した家庭学習の取り組み ●課題形式の家庭学習の実施→英語単語ノート、予習・復習プリント→年間を通した継続 ●土佐南中学校区学力向上小中連携推進事業の継続→4部会に組織された小中学校教職員の各グループにより年間3回以上の研修・交流を実施する。●全国学力・学習状況調査問題、高知県学力定着状況調査問題、高知県作成思考力問題集、単元テストチャレンジ問題等を平素の年間授業計画や定期考査に取り入れる。				A B C D E	○小中学校での実践交流(授業交流及び取り組み交流) ○加力タイムの効果的な実践を推進 ○授業のめあての見直し

学校関係者評価を踏まえての改善点:

- ◇生徒の実態に応じた加力タイム(水曜日6時間目:30コマ目)の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定(調査において低位だった問題を重点的に復習)
- ◇全国学テ・県版学テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導に取り組む。
- ◇学校ビジョンに基づいた校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修や授業づくり部における取組の充実。
- ◇どの生徒にとってもわかりやすい授業の工夫や環境の工夫に取り組む。

土佐市立 土佐南中 学校						公印	NO. 3
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄
3 つなぐ学校・家庭・地域	児童生徒が学校生活に満足できているか	生徒アンケート「あなたは学校生活が楽しいですか」の、5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、生徒アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も、5段階評価でAを維持する。 ・H27:3学年平均4.0→H28:3学年平均4.1(+0.1)	○平均得点は、昨年度から微増である。肯定群・否定群とも昨年より減っている。3年生は肯定群が増え、否定群が減った。2年生は肯定群が減って、否定群が増えた。成長の過程の現象ととれる。	A B C D E	○各種調査や取組をとおして、生徒理解を基盤とする生徒指導体制を継続・発展させ、生徒個々に焦点を当てた支援を行う。 ・Q-Uアンケート ・Q-Uアンケート分析職員会 ・学校生活に関するアンケート ・学習に関する意識実態調査 ・学校評価アンケート ・チーム支援会議(指導主事の要請を含む) ・個人面談 ・特別支援教育に関する研修	○孫の運動会で、競技が終わったときに、相手を決めて、6年生がインタビューをしていた。なかなかうまい子もいた。インタビューするには、前もって考えておかないといけない。保護者にもインタビューしていてもよかった。中学校でも取り入れてみてはどうだろう。
	保護者・地域住民の意見を学校運営に反映しているか。	保護者アンケート「学校は子どもたちや保護者・地域住民の意見を聞き、学校運営に反映していると思いますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度、保護者アンケートでは5段階評価でCであった。 28年度は、5段階評価でBを目指す。 ・H27:3.4→H28:3.4(±0)	○平均得点は昨年度と同じである。生徒個々の能力や努力を適切に評価している、わかりやすい授業につとめている。の2項目の得点が下がっていることと関連があるかもしれない。	A B C D E	○保護者からの意見や情報については職朝などで全教員に周知し、また教職員が得ている情報についても共有する体制を継続する。 ○生徒との個人面談の定期実施 ○通信等が保護者に届いているか確認を行う。	
	保護者・地域住民が学校に訪問できるような工夫がなされているか。	教職員アンケート「学校の教職員は、保護者や地域住民の意見を、学校及び学級運営に反映させていると思いますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上 =A 3.5以上=B 3以上 =C 2.5以上=D 2.5未満=E	27年度は、教職員アンケートでは5段階評価でBであった。 28年度は、5段階評価でAを目指す。 ・H27:3.7→H28:4.2(+0.5)	○昨年度より0.1P下がった。大量の人事異動があったことも影響しているのではないだろうか。また、通信や家庭への連絡等情報発信を行っているかとの項目も0.1P下がっている。学校からの発信が保護者まで届いていないことも影響している可能性がある。	A B C D E	○学校経営計画や教育計画の中で、どのように「保護者等の意見」を反映させていくのか、それぞれの校務分掌の中で確認をする。 ○学校評価アンケートの内容を今までの実現度だけでなく、重要度を加えて、保護者の願いを把握する。	
	保護者・地域住民が学校に訪問できるような工夫がなされているか。	学期末面談以外の学校行事で、保護者・地域住民が学校を参観できる取り組みを、何回行っているかで判断。 ・年5回以上=A ・年4回以上=B ・年3回以上=C ・年2回以上=D ・年1回以下=E	27年度、教職員アンケートでは5段階評価でAであった。 28年度も5段階評価でAを維持する。	○参観授業を講演会や給食試食会等と併せて実施するなど工夫しているが、平日の場合はなかなか保護者が集まらない。 ○民生児童委員さんには様々な行事や取組に参加・参観していただき、学校との大きな絆づくりに貢献していただいている。	A B C D E	○学年参観日や自由参観日、参観週間の調整・設定について継続する。 ○総合的な学習の時間や学習成果発表などの特色ある取組の際は保護者に案内する。	
	●年間をととした継続的な地域人材との交流や活用 ●職場体験学習 3年での実施(職業選択:土佐市内での活動) ●命の学習(健康教育・朝食づくり) ●しおかぜ公園清掃ボランティア ●高齢者理解教育 ●非行防止教室(インターネット関連、薬物乱用防止)				A B C D E	○しおかぜ公園清掃については、その活動意義が大きく、今後も継続的・発展的に取組を推進したい。 ○命の学習は定着してきているので、今後も継続していく。	
地域・保護者との連携	学校の姿が、保護者・地域住民にわかるような工夫がなされているか。	学校だより、学級通信を月に1回以上発行できたか、またホームページを学期に1回以上更新出来たかで判断。 上記の全てが出来、それ以上の発信も出来ている =A ・上記が全て出来ている =B ・上記の2点が出来ている=C ・上記の1点が出来ている=D ・上記が全て出来ていない=E	27年度は、5段階評価でAであった。 28年度も、5段階評価でAを維持する。 ・H27:学校だより47号発行、HP更新は毎週実施→H28:学校だより40号発行、HP更新は毎週	○HPの更新については定期的に行っており様々な情報をアップできた。 ○進路通信、情報教育通信等の定期的な発信ができています。やや学年によって差はあるものの学年だよりも多く発信できた。 ○学校便りも昨年度並(週1回以上)発信できた。	A B C D E	○参観週間の設定「各学期」の継続 ○総合的な学習の時間や学習成果発表などの特色ある取組の際は、保護者へ案内する。 ○HP担当者に頼るところが大きく、HPを組織的にアップできる体制は検討課題。	○特になし。
	学校評価の情報を保護者に公開しているか。	学校評価について発信回数(学校便り、校長便り、HP等)で判断。 年5回以上 =A 年3回以上 =B 年2回以上 =C 年1回 =D 発信していない=E	27年度は、5段階評価でAであった。 28年度は、5段階評価でAを維持する。 ・H27:5回→H28:5回	○学校評価に係る情報発信は学校便りなどの通信やHPをとおして行っている。	A B C D E	○学校評価アンケートについては、学校便り・HPで発信し、情報公開に努める。 ○前年度の課題解決策を反映させた学校経営計画の見直しと共有及び発信	
	●学校便り「土佐南だより」を保護者以外にも発信し学校の様子について広く知ってもらう。(小学校、民生児童委員さん、地域施設などへの定期的な発信) ●しおかぜ公園清掃ボランティア・アルミ缶回収への協力の呼びかけ(防災無線やポスターの掲示、土佐市広報への掲載) ●土佐南中学校区小中連携事業組織の活用による情報発信の工夫(「小中連携だより」の発信)				A B C D E	○学校からの情報発信の充実・継続、保護者への確認 ○学習成果物や行事ポスターの地域への掲示を継続 ○PTA及び小中連携組織の活用	

学校関係者評価を踏まえての改善点:

- ◇各種調査や取組をとおして生徒理解を基盤とする生徒指導体制を継続・発展させ、生徒個々に焦点をあてた支援を継続させる。
- ◇魅力ある学校となるべく、地域に開かれた取組をさらに推進する。しおかぜ公園清掃ボランティアや地域を巻き込んだ行事を充実させる。
- ◇保護者からの意見や情報については職朝などで全教員に周知し、また教職員が得ている情報についても共有する体制を継続する。
- ◇Q-Uアンケート、学校生活に関するアンケート、F Mday、個人面談等をととした「生徒理解」のための体制を継続する。
- ◇学校からの情報発信の充実・継続、学習成果物や行事ポスターの地域への掲示を継続、PTA及び小中連携組織の活用。
- ◇生徒アンケート(学習に関するアンケート)を1学期にも実施し、学校だより等で保護者に知らせる。

土佐市立 土佐南中 学校					公印	NO. 4	
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄
豊かな心の育成	不登校出現率調査 (H28児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査と合わせる)	年度末の不登校出現率で判断。(小学校)不登校出現率が ・0.3%以内=A ・0.7%以内=B ・1.1%以内=C ・1.5%以内=D ・1.5%以上=E (中学校) 2%以内=A・2.5%以内=B 3%以内=C・3.5%以内=D 3.5%以上=E	27年度は5段階評価でEであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:5.0%→H28:5.0%	○30日以上欠席がある生徒は4名。4名とも登校した日は友だちの誘いがあれば、自然に教室で過ごすことができる。	A B C D E	○関係機関との連携を継続 ○気になる生徒に関する情報共有とチームとしての関わり ○毎月行っているFMdayの充実と活性化 ○個人面談や家庭訪問等を活用した生徒・保護者との関係強化 ○友だちからのアプローチ	○特になし。
	人間関係づくり(P・A・SGE等)を推進しているか。	全学級での人間関係づくりの取組の実施状況で判断。 年間4回以上=A 年間3回=B 年間2回=C 年間1回=D 一度も取り組んでいない=E	27年度は5段階評価でBであった。 28年度は5段階評価でAを目指す。 ・H27:全学級平均3回合計9回→H28:全学級平均5回合計15回	○昨年よりも多く実施できたが、学年による差もあった。 ○学級の枠を超えて、縦割りグループで各種行事に取り組むことができた。	A B C D E	○学級経営の充実のため仲間づくりや人間関係づくりに関わる特別活動や道徳を継続的に実施 ○学級での取組や学校行事などを実施するにあたり、目標設定や振り返りを行うことで、学級の人間関係づくりを推進	
	●Q-Uアンケート分析学年会・校内研修会の実施 ●道徳的価値の自覚を深めるための道徳授業の充実と道徳参観日の実施 ●生徒の感性や道徳性を培う体験活動や奉仕活動(命の授業・高齢者体験授業・ボランティア) ●「FMday:ファーストマンデー」:毎月第1月曜日に気になる生徒の様子について情報交換を行う「生徒理解職員会」の実施 ●「読書活動の充実」:生徒選書会の実施 ●花の植栽活動(5月・11月)					A B C D E	○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○ストレスバイパス ○読書活動の推進 ○特別支援教育の手法を生かした教育の充実
4 はぐくもう豊かな心・健やかな体	いじめ認知件数 (H28児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査と合わせる)	問題行動調査のいじめ認知件数のうち解決した割合を記入。 (記入例) 認知件数○件のうち、□件が解決。残り△件は……。		○認知件数3件のうち、3件が解決。		○学校生活に関するアンケートの継続実施 ○気になる生徒に関する情報交換を毎朝の職員朝礼で積極的に行う。 ○学級経営の充実として、仲間づくりや人間関係づくりに関わる特別活動や道徳を継続的に実施する。 ○些細なことでも報告、共有。	○特になし。
	教職員が児童生徒の心を理解する研修を行っているか。	Q-Uアンケートや心の教育に関する校内研修会の実施回数で判断 ・年間5回以上行っている=A ・年間4回以上行っている=B ・年間3回以上行っている=C ・年間2回以上行っている=D ・年間2回以下である=E	27年度は5段階評価でCであった。 28年度は5段階評価でBを目指す。 ・H27:校内研修3回、毎月FMdayの実施→H28:校内研修3回、毎月FMdayの実施	○FMdayやQ-Uアンケートの校内研修については実施できた。 ○同一学年で、学年が上がるにつれて学級生活満足群の割合も向上している。 ○児童生徒の心の理解面については、日常の指導の中で得た情報を更に共有することが重要。	A B C D E	○教職員の積極的な研修会への参加 ○校内研修の充実 ○生徒理解シートの活用	
	Q-Uアンケートから見る児童生徒の状況	Q-Uアンケート2回目の満足群の児童生徒の割合(平均)が、 75%以上=A 65%以上=B 55%以上=C 45%以上=D 45%に満たない=E	27年度は5段階評価でCであった。 28年度は5段階評価でBを目指す。 ・H27:58.9%(全国35%(参考:1年50%、2年52%、3年74%))→H28:60.5%(全国35%)1年81.3%、2年57.1%、3年54.2%	○学習に自信のない生徒が不満群に属している傾向は昨年度までと同様 ○学力向上の取組の充実を継続できた(学習支援シート活用・机間指導・支援) ○プロット図でタテ型のクラスが多い。	A B C D E	○Q-Uに係る研修の継続 ○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○個人面談の実施 ○授業での個への支援(机間指導の充実) ○支援の必要な生徒への手立ての実施。 ○承認得点を上げられるよう自己有用感、自己肯定感を高めていく。	
	●Q-Uアンケート分析学年会、校内研修会の実施 ●道徳的価値の自覚を深めるための道徳授業の充実と道徳参観日の実施 ●生徒の感性や道徳性を培う体験活動や奉仕活動(命の授業・高齢者体験授業・ボランティア) ●「FMday:ファーストマンデー」:毎月第1月曜日に気になる生徒の様子について情報交換を行う「生徒理解職員会」の実施 ●「読書活動の充実」:生徒選書会の実施 ●花の植栽活動(5月・11月)					A B C D E	○Q-Uアンケート結果分析職員会 ○仲間づくり手法の研修 ○ストレスバイパス ○読書活動の推進 ○特別支援教育の手法を生かした教育の充実
健康な体と体力の増進	児童生徒の体力について	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から判断 体力総合得点の全国と差が ・3P以上=A ・1P以上=B ・-1P以上=C ・-3P以上=D ・-3P未満=E	27年度は5段階評価でCであった。 28年度も5段階評価でBを目指す。 ・H27:中2男全国比+0.7中2女子全国比-0.4 ・H28:中2男40.5(全国比+0.2)→中2女子47.1(全国比-2.4)男女平均43.8(-1.9)	○学年男女とも全国平均と比較してほぼ同じで、バランスも良く学年のレベルは優れていると思われるが、総合評価において、男子総合判定では筋持久力において数値が低く、女子は柔軟性、筋持久力において低い結果となった。授業時の体づくりやUPを工夫して取り組むことが重要。	A B C D E	○今後は体づくり運動や、準備運動の内容をより効果的に行う。数値の低い生徒の体力を引き上げるために、さらに体づくり運動の内容を充実する。	○朝食を食べているが主食のみが36%(昨年度より+28%)の背景で、気がつくことはあるかという質問。 ○スマホが増えてきている。学校としての統一した方針はあるのかという質問。 ○スポーツをやっている子は食べているのでは? 昔は小学生で1日2万3千歩歩いていたそうだが、今はその半分。体を動かすのが減ってきたからではないか。
	児童生徒が規則正しい生活が送れているかどうか。	生活実態調査から、児童生徒の朝食の摂取率で判断。 ・100%= A ・95%以上= B ・90%以上= C ・85%以上= D ・85%未満= E	27年度は5段階評価でDであった。 28年度は5段階評価でCを目指す。 ・H27:朝食摂取率は88%→H28:88%	○本年度の摂取率は、88%(昨年度と同じ)となった。理由としては、昨年と同様「時間が無い」「食欲がない」 ○食べない生徒は3%。 ○朝食を食べているが主食のみが36%(昨年度8%+28%)と多くなっている。2年生がヘルスメイトさんの朝食づくりを学習し、バランスのとれた朝食や朝食の必要性を知ることができた。	A B C D E	○朝食の大切さを保健便り、健康づくり通信で、保護者に知らせる。また、家庭科の実習で、ヘルスメイトさんを活用した朝食作りを継続して行う。	
●小中連携による学習規律・生活習慣・家庭学習の習慣化を継続して行う。 ●「小中連携だより」、「土佐南校区健康だより」により児童生徒の発達状況等の啓発活動を継続。 ●ヘルスメイトさんを活用した「朝食づくり」の取組。(朝食の重要性について学習→調理実習)					A B C D E	○児童生徒の生活習慣や体力・運動能力について、「土佐南校区健康だより」等で家庭の協力を得られるよう啓発する。	

学校関係者評価を踏まえての改善点:
◇ネットにおけるいじめやトラブル等の防止に向けて校内研修を行うとともに、保護者も巻き込んだ研修の場をもつ。
◇いじめ防止基本方針に添った「楽しく豊かな学校生活」が送ることができる、いじめのない学校づくり。
◇「個別支援」が必要な生徒への対応の充実と「予防策」の検討。
◇生徒会執行部や専門委員会を主体とした課題解決に向けた活動(いじめ防止にむけての生徒活動の充実)。
◇朝食摂取率の向上や内容の充実に向けて関係機関とのさらなる連携充実を図り、保護者も巻き込んだ研修の場を設ける。